

国立博物館、国立美術館、国立科学博物館の違い

	国立博物館	国立美術館	国立科学博物館
目 的	・文化財の保存、活用	・芸術文化の創造と発展	・自然科学及び社会教育の振興
理 念	・保存と継承 ・日本の歴史・伝統の精華を集積し、発信する場	・創造と発展 ・作品等を通じて人々の感性を育む場	・人々が地球や生命、科学技術に対する認識を深め、人類と自然、科学技術の望ましい関係について考察する場
ナショナル・センター機能	・我が国の「宝」である文化財の適切な環境での収集・保管・展示及び文化財に関する総合的な調査研究 ・日本の歴史・伝統を海外に発信	・芸術家や公私立美術館を支援し、美術館活動全体の活性化に寄与する ・美術活動等に関する国際交流拠点	・自然史等の中核的研究機関としての国際連携・協力、国内の標本資料情報の集約と発信 ・モデル的・先導的な展示・学習支援活動の開発普及
収 集	・日本の文化財 ・襖絵、掛軸、仏像、考古資料、刀剣など	・我が国の近・現代美術及び海外の美術作品等 ・近現代中心の油絵・メディアアート・写真など	・自然史及び科学技術史に関する資料（標本化の過程を経て資料としての価値を有する）
展 示	・適切な保存管理が前提	・感性を刺激する様々な工夫	・研究に基づき収集した資料を標本化し展示
専門分野	・人文系（美術史（主に近世以前）、考古学、歴史、文化史、文学など）	・人文系（美術史（主に近代以降）、芸術学、美学など）	・自然科学系（生物、地学、人類学、物理学、機械工学など）
調査研究手法	・我が国の歴史、文化史上において、文化財や資料類が人々の信仰や価値観、美意識などの精神活動の現れとして機能した様を分析 ・作品や資料の保存状態を把握し、素材や製作技法、修理履歴などを調査研究	・平面や立体の作品をはじめ、多様な表現媒体で創作された作品を研究対象 ・作品の制作意図や来歴などを調査研究し、表現の中に込められている思想や価値観などを現代人との関わりから分析する	・標本資料やフィールドワークなどを用いて、地球と生命の歴史、科学技術の歴史を解明